

第6回日本 HBOC コンソーシアム 学術総会

ご挨拶

第6回日本 HBOC コンソーシアム学術総会は、2018年1月20日～21日に、聖路加国際大学日野原ホール、ならびにアリスホールにおいて開催する運びとなりました。

日本 HBOC コンソーシアムは遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC：Hereditary Breast and Ovarian Cancer）に関する情報を共有し、遺伝性の乳がんおよび卵巣がんの予防、診断、治療の向上を図ることを目的として、2012年10月に設立されました。

過去の学術総会には、HBOCに関心を抱く医師、看護師および研究者などの専門家が全国から300名近く参加し、最新の臨床例や研究成果を基調に学びを深めてまいりました。近年、特定の原因遺伝子の変異を有する患者に特化した抗腫瘍薬の認可や、複数の遺伝子解析が現実味を帯びてきたこともあり、医療現場における重要性がますます高まっています。また、2016年8月には、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構が設立され、2017年度は施設認定に向けた活動が開始されました。

そこで今回の総会のテーマを「実戦！THE NEXT STEP HBOC 診療」とし、まさに THE NEXT STEP に入った HBOC 診療を日常診療とするための実践知識と技術・経験の獲得、および各施設での知恵の共有を目的といたしました。また市民公開講座では、患者さんにもご協力いただき、HBOC のみならず遺伝医療への理解を深めるため啓発活動も行う予定です。その動向は社会的にも大きな意義を有するものと確信しております。

是非、多くの方にご参加いただき、日本における遺伝性乳癌卵巣癌症候群総合診療を充実させていきたいと思っております。何卒よろしくお力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご発展とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

第6回日本 HBOC コンソーシアム 学術総会 会長

聖路加国際病院 副院長 ブレストセンター長、乳腺外科部長 山内英子